

□リフレクションの概念構築の基礎づくり。

#### メンタリング

公的または非公的な関係

#### メンターの定義:

- 経験があり、信頼できる指導者 (Oxford Dictionary)
- 相互の信頼関係においては、経験が少なくても快く知識を与えてくれるとても経験が豊富な人(Clutterbuck 1992)

#### グループスーパービジョン/支援

- グループのファシリテーター (内部もしくは外部の人)
- 5~7人の実践者 (1つまたはいくつかの学問分野に渡る)
- 1.5~3時間
- 義務的な人もしくはボランティア
- 4~6週毎のセッション
- 確保された時間
- 基本ルール (を守ること)
- 調査もしくは、吟味した実践に関する討論
- 賛同を得た論点を確認するための戦略
- 次のセッションに向けた戦略のリフレクション

#### アクションラーニング

- 他者からもしくは、自分でファシリテートされること
- 6人のセットされたメンバー
- 6週間毎8回のセッションに参加
- 全期間に責任を持って参加すること。
- 基本ルール
- タイムアウト (時間切れ、または中休み) プレゼンとして自発的に一反復学習
- 「セットされた」メンバーが聴いて、プレゼンターの話を読み直して、共感しソクラテス的問答を行い、フィードバックする。
- アクションのポイントは次のミーティングで再検討される。(McGill & Brockbank, 2004)

#### 結論

「アクションにおけるリフレクション」は「アクションすることによって知識を得る」ために、仮定的に構成された質問を経ることによる、クリティカルな機能を持っている。私たちはこのような立場や機会の中に身を置くことをクリティカルに考えている。そして私たちは、たぶんこの過程、アクションを再構築する戦略、現象の理解、もしくは問題を構成する経過について考えている。(Schon, 1987)

#### 2) 日本の現状との比較

我が国の実践現場においてリフレクティブ・プラクティスの手法を用いた取り組みの報告はない。わずかに学部生の臨床実習においてリフレクティブ・ダイアリーをつけて振り返りを行った本学における報告があるのみである。

#### 4. ロンドンシティ大学の教育カリキュラムとプログラム

ロンドンシティ大学における地域専門看護師に対する教育カリキュラムとプログラムに関する冊子12冊を入手し、その内容について理解が得られた。

専門能力	学習目標 (期待する学習成果、 学習者の到達点)	学習内容 (学習者が学ぶこと)
1. 住民の健康・幸福の公平を護る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の理念や基本的な価値感について、自分の言葉で語るができる</li> <li>2. 公・官・民の意味について理解し、それぞれの役割について、自分なりの考え方を持つことができる</li> <li>3. 健康の不公平の有無について察知し、その実態について明らかにすることができる</li> <li>4. 健康の不公平をただすために、自分のおかれた立場に応じた役割を理解することができる</li> <li>5. 自分の地域の健康の不公平の状況について継続的に監視するための方法、システムについて述べるができる</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の理念と行政の公的責任、住民の権利擁護、倫理的配慮に関すること</li> <li>・公衆衛生の定義</li> <li>・公衆衛生の基本理念</li> <li>・官・公・民の意味 公的責任の意味 ・保健活動における倫理</li> <li>・公衆の健康と個人の健康の一致/不一致</li> <li>・不公平が生じる要因と健康の格差</li> <li>・サービスへのアクセスの格差、その対処方法に関すること</li> <li>・健康の不公平さ(格差)とは何か、健康の不公平さを生じさせる要因</li> <li>・不公平さの実態を明らかに(把握)する方法</li> <li>・着目すべき健康の指標は何か</li> <li>・サービスのアクセスの実態を明らかにする方法</li> <li>・不公平さを改善する方策</li> <li>・不公平さのモニタリングを行う体制、</li> </ul>
2) 地域全体のサービスの質を監視する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 サービスの質を把握するための指標について理解し、設定することができる</li> <li>2 具体的なサービスの質の改善のための介入方法について理解することができる</li> <li>3 サービスの質の監視・質改善のために関係者と合意形成を行うためのアプローチ方法について理解することができる</li> <li>4 地域の健康ニーズに応じるための社会資源の量について算出し、資源の不足の有無について他者に提示することができる</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある社会資源の総合的な質の監視と継続的な質改善の方法に関すること</li> <li>・保健/医療/福祉サービスの質の評価の方法および指標</li> <li>・医療監視のあり方</li> <li>・サービスの質の最低基準の策定</li> <li>・サービスの質の維持・向上のための施策</li> <li>・地域全体の健康ニーズと社会資源のバランスの査定に関すること</li> <li>・サービスの需要と供給の予測方法</li> <li>・供給が需要に満たないときの方策</li> </ul>
3) 健康危機管理を行う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康危機の概念について理解することができる</li> <li>2. 健康危機の予防、および健康危機発生時において、時期に応じた適切な対応を理解することができる</li> <li>3. 健康危機に対応するうえで特有の技術を身につけることができる</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康危機が生じる要因と発生予防</li> <li>・健康被害の拡散予防、その対処方法に関すること</li> <li>・健康危機管理の定義 危機管理の種類</li> <li>・各フェーズで生じる健康問題とその対応方法</li> <li>・PTSDへの対応</li> <li>・住民・マスコミへの対応</li> <li>・健康危機時の対処組織の編成</li> <li>・業務予測と不足への対処(応援要請)</li> <li>・健康危機時のハイリスク者の把握</li> </ul>

学習形態 (OJT/ Off-JTの 別)	教育方法・計画 (学習支援方法・計画) (講師、助言指導者、ファシリテーターが行う こと、用いる理論や手法)	望ましい 講師・助言者 (条件)	使用媒体	参考図書 参考文献
講義 演習(ケー スメソッド) 個人レポ ート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公衆衛生とは」「住民の権利擁護」「公衆衛生従事者の倫理」「行政の役割」に関する講義</li> <li>・ケースメソッドの実施 討論</li> <li>・最終的には個人で、公衆衛生とは何か、そしてそのなかでの自らの役割についてレポートを記載する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年、公衆衛生行政に携わり、実体験をふまえて公衆衛生を語ることのできる専門職(保健師が望ましいが、他の職種でもよい)</li> </ul>	事例	参考文献 大谷藤郎／現代のスティグマ／劉草書房／1993年
講義 演習(ケー スメソッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康格差をもたらす影響、健康格差はなぜ防がなくてはならないのか、格差の指標、格差をひき起こす要因についての講義</li> <li>・シュミレーション用のデータをグループ単位で分析し、健康格差の実態についてグループ単位でプレゼンテーションを実施→当該地域のデータが望ましい。可能であれば地域データを使う。</li> <li>・講師のコメントおよび日本における健康格差の実態に関する講義の実施</li> <li>・健康マイノリティの方の体験談 および語られたケースに対して、格差是正のために実施すべきことに対して討論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康情報分析に関して、技術および知識を持つ大学の教員</li> <li>・健康マイノリティであり、かつ自己の体験を言語化できる対象本人</li> </ul>	シュミレー ションデー タ事例	参考文献 近藤克則著／健康格差社会／2005年
講義 演習 事例の報 告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のサービスの量と質の把握方法、質の改善に関する概要講義</li> <li>・実際の医療監視の方法、と結果の活用</li> <li>・質の実習基準作成事例の紹介</li> <li>・質を保証するための施策の事例紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療監視経験者</li> <li>・質保証施策の立案経験者</li> </ul>	災害時ビデ オ等媒体 シミュレー ション検討	桜山豊夫編著／知っておきたい医療監視・指導の実際／医学書院／2004年
講義 演習(ケー スメソッド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要と供給の測定方法の演習</li> <li>・供給量が不足する場合の方策に関する演習</li> </ul>		シュミレー ション 演習	
講義 演習(ケー スメソッド・ ロールプレ イ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康危機管理の概論(種別・基本的な姿勢や対応)についての講義</li> <li>・ケースメソッド(異なった種類の危機状況のケースを提示して、グループ別に討議、全体で共有 スーパーバイザーのコメントと総括)</li> <li>・ロールプレイ(PTSD／住民対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に危機管理状況を経験、もしくは支援経験を持ち、それを客観化、体系化できるエキスパート保健師・大学教員など</li> <li>・PTSD対応は精神・心理領域のスペシャリストでかつ実際の対応経験がある人がのぞましい</li> </ul>	シュミレー ション 事例	厚生労働省編／地域健康危機管理ガイドライン

専門能力	学習目標 (期待する学習成果、 学習者の到達点)	学習内容 (学習者が学ぶこと)
2. 政策や社会資源を	1. 政策や社会資源を創出する必要性を把握することができる	地区診断手法を用いた健康課題の明確化に関すること
1) 創出の必要性を把握し実現に向けて企画・展開する		日常業務を通じた、政策や社会資源創出の必要性の把握に関すること
		社会情勢からみた健康課題の明確化に関すること
2) 創出の実現可能性を推進する	2. 政策や社会資源の創出を推進・具現化できる	スクラップ&ビルドの方法に関すること ユニークで多様な案の発想に関すること
		創出を推進・具現化するための促進因子・阻害因子に関すること
		創出実現までの過程と、目標、評価方法の明確化に関すること 必要経費・人員・業務量の算定に関すること 実現可能な創出の企画に関すること
	3. 創出の実現に向けて、関係機関・関係職種と協同できる	組織体制、法的根拠、関連施策、関係機関・職種に関すること
		所属や組織内外との交渉・合意形成、連携・協同の方法に関すること
		保健師が政策や社会資源を創出に関わる意義と動機づけに関すること

学習形態 (OJT/ Off-JTの 別)	教育方法・計画 (学習支援方法・計画) (講師、助言指導者、ファシリテーターが行う こと、用いる理論や手法)	望ましい 講師・助言者 (条件)	使用媒体	参考図書 参考文献
講義＋演 習 (Off-J T)	健康課題を明確化する手法に関する講義・ 演習	・大学教員		・金川克子編. 地 域看護診断技法と 実践. 東京大学出 版会. 2000. ・特集 地区診断 ができないを克服 する. 保健婦雑誌 2001;57(8)
グループ ディスカッ ション (OJT)	日常業務での未解決・困難事例などを振り 返り(リフレクション)、何が課題かをグループ ディスカッションする	・保健師活動をよく 知り、振り返りをス ーパーバイズできる第 3者(エキスパート保 健師、大学教員な ど)	リフレクショ ンシート	サラ・バーンズ他 編, 田村由美他 訳. 看護における 反省的实践. ゆみ る出版. 2005.
グループ ディスカッ ション＋自 己学習 (OJT)	同僚らと現在の社会問題についてディスカッ ションし合う 自己トレーニング(感想文や社説などを書 き, 意見を述べるトレーニング)	・問題への感性が 鋭い先輩保健師、 事務職、福祉職な ど	新聞、 ジャーナル における、 その時のト ピックを示 す題材のコ ピー	
ブレイン ストーミン グ (OJT)	課題解決のための、創出案をブレインスト ーミングで自由に発想しあう。	・創出経験のある保 健師 ・企画・調整部門の 事務職、保健師	模造紙 付箋紙	ブレインストーミ ングに関する図書
グループ ディスカッ ション (OJT)	グループディスカッションで、創出実現の、 促進因子、阻害因子を検討する。	・創出経験のある保 健師 ・企画・調整部門の 事務職、保健師	模造紙 付箋紙	
講義＋演 習 (Off-JT)	講習会、演習(企画書の書き方、計画の立 て方、評価方法の明確化) 活用可能な助成金事業の紹介	・企画・調整部門の 事務職、保健師 ・大学教員	企画書 フォーマット	日本看護協会. 平 成9年度先駆的保 健活動の報告書 プロポーザルの作り 方. 1997.
講義＋演 習 (Off-JT)	講義(政策形成のプロセス、行政組織の仕 組み) 演習(関連する政策の体系図、組織体系図 を作成する)	・政策・行政に精通 する大学教員 ・議員対応をしたこ とのある行政職員 ・企画・調整部門の 事務職	企画案に応 じた関連法 規・施策、関 係機関・職 種に関する 資料。	政策・行政学に関 する図書
ディベート (Off-JT)	企画書を関係他職種の前でプレゼンテ ーションし、意見をもらう。 企画への賛成派、反対派に分かれ、ディ ベートをします。ディベートを通して気づいた ことを整理し、企画の修正案を作成する。	・企画・調整部門の 事務職	パワーポイ ントなど、プ レゼンテー ションに効 果的な媒体 を参加者が 検討する	・特集 プレゼン テーション上手にな ろう. 保健師ジャー ナル 2004; 60(11). ・望月和彦著. ディ ベートのすすめ. 有斐閣. 2003. ・松本茂著. 日本語 ディベートの技法. 七寶出版. 2001.
講義 (Off-JT)	先進的な活動から学ぶ。熟練保健師の、創 出経験に関する語りを聞き、コツ・醍醐味を 学ぶ。	・創出経験があり、 経験を語れる熟練 保健師		

専門能力	学習目標 (期待する学習成果、 学習者の到達点)	学習内容 (学習者が学ぶこと)
3. 住民の力量を高める能力	<p>1)力量形成を要する対象を把握し健康増進・改善を支援する</p> <p>2)住民・住民組織の主体的な地域づくり・健康づくりを推進する</p> <p>1)住民組織が活動の目標と組織的な解決の方向性を定められるように助言ができる</p> <p>2)住民組織による活動が地域の社会資源として機能するように助言・調整することができる</p> <p>3)住民が活動の目標を達成するのに必要な社会資源(住民同士、関係者、関係機関等)を判断し調整することができる</p> <p>4)住民／住民組織の活動を支援する関係者との協力関係を構築することができる</p> <p>5).住民／住民組織の活動を評価し、成果を行政や市民にアピールすることができる</p> <p>6).住民が保健政策の決定過程や健康づくり活動に参加できるあらゆる機会を捉え参加をマネジメントすることができる</p> <p>3.住民との意思疎通・人間関係を確立しパートナーとしての関わりを維持することができる</p>	<p>1, 2の目標に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスプロモーション、エンパワメントの理論と実践方法に関すること</li> <li>・コミュニティオーガナイズーション、セルフヘルプグループ等に関すること</li> <li>・住民組織育成・支援の全プロセスと保健師の支援方法の全体像</li> <li>・組織育成のプロセスと支援技術および評価方法に関すること</li> <li>・活動のPlan-Do-Seeのプロセスに関すること</li> <li>・住民・住民組織の活動の目的</li> <li>・住民組織育成・支援の各段階での保健師の支援技術(住民組織のアセスメントとニーズに応じた支援技術)に関すること</li> <li>・住民／住民組織の力量を高めることの、個々の住民にとって地域にとっての意義、地域全体の社会資源の中での意義について</li> <li>・学習者の実践活動を通して、組織の状態像のアセスメント方法やそこへの支援技術および活動の評価方法に関すること</li> </ul> <p>(学習目標5)評価と成果のアピールについては能力4を、学習目標6)の住民の保健政策の決定過程等については、能力2を参照のこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民や関係職種と関係との援助関係を構築する技術の知識と技術に関すること</li> </ul>

学習形態 (OJT/ Off-JTの 別)	教育方法・計画 (学習支援方法・計画) (講師、助言指導者、ファシリテーターが行う こと、用いる理論や手法)	望ましい 講師・助言者 (条件)	使用媒体	参考図書 参考文献
講義	学識経験者からの講義	・大学教員／組織 育成経験のある保 健師	書籍	実践ヘルスプロ モーション Precede-Proceed モデルによる企画 と評価, ローレンス W グリーン他著
グループでの演習	グループでの学習。住民の力量形成の成功事例について、ビデオ教材・語り部教材・実践者からの講義等で学び、その全体像をつかむ。その中から、組織化のプロセス、保健師の支援内容についてグループで討議する	・組織育成経験のある保健師	ビデオ教材・語り部教材・実践者からの講義、事例	
グループでの演習	グループで演習を行う。組織育成のシミュレーションができる媒体(模擬事例)を用い、住民／住民組織の力量を高める過程での保健師の判断・支援について各自で考える。その後、お互いに発表しあう。	・大学教員／組織 育成経験のある保 健師	シミュレーションができる媒体	
グループでの演習	学習者の実践事例を通じて学習する。組織育成に関するPlan-do-Seeの過程を踏むために、事前に、組織育成の目的・方法・評価等を記載する計画書を作成し、スーパーバイザーからの助言を得る。事例展開は、学習者の実践事例とする。	・大学教員／組織 育成経験のある保 健師	組織育成のための支援計画用紙	ヘルスプロモーションの評価 成功につながる5つのステップ, Penelope Hawa他著 鳩野洋子他訳, 医学書院
グループでの演習・インターネットを通じた学習	学習者の実践事例を通じて、グループで学び合う。インターネットを通じて、住民組織化に関わる保健師がグループで定期的に集まり、お互いの活動状況を報告しあい、助言しあう。スーパーバイザーからの活動へのアドバイスを行う。(困ったときに随時、メーリングリストなどでの情報の共有やグループ内での助言を行う方法を取る)また、全員が集合し、お互いの活動報告と、スーパーバイザーからの活動の意味づけを行う。	・保健師同士	(各自の実践)リフレクションシート、インターネットのML等	グループ支援におけるアセスメントと評価, 錦戸典子他, 看護研究 36(7), 2003
実践場面	住民組織育成を実践しながら、住民と学習者(保健師の)話し合いの中から保健師の支援に関する評価を得る(住民との話し合い等)。スーパーバイザーが話し合いの内容を客観的に評価し、助言する。	・住民・スーパーバイザー	(各自の実践)リフレクションシート	
Off-JT/OJTどちらでも可	グループでの演習を行う。知識提供の講義と学習者同士のロールプレイを行い、お互いに評価し合う。スーパーバイザーからの助言も得る。	・大学教員／組織 育成経験のある保 健師	書籍 ピア	保健医療職のための伝える技術 伝える技術 Philip Burnard著 永野ひろ子監訳 医学書院

専門能力	学習目標 (期待する学習成果、 学習者の到達点)	学習内容 (学習者が学ぶこと)
4. 活動の必要性和成果を見せる能力	<p>1) 活動の必要性を根拠に基づいて見せ、説明する</p> <p>2) 活動の成果を評価に基づいて見せ、説明する</p> <p>1. 必要な文献情報や統計情報を探し出し、入手することができる</p> <p>2. 文献情報や統計情報について、問題点を指摘し、信用できる度合を適切に判断することができる</p> <p>3. 調査・情報収集の目的を明確にし、そのための調査デザイン、調査方法の選択が適切にできる</p> <p>4. 質的方法による調査および結果のとりまとめを行うことができる</p> <p>5. 数量的方法による調査および分析、結果の解釈を行うことができる</p> <p>6. 目的を達成するために、どのタイミングで、誰に対して、どのような方法で、説明・説得を行うのが効果的であるかわかる</p> <p>7. 住民、事務職、首長等に向けて、わかりやすく、説得力のある文書を書くことができる</p> <p>8. 適宜、媒体等を用いながら、住民、事務職、首長等に向けて、わかりやすく、説得力をもって、口頭で説明することができる</p>	<p>情報活用、文献検索、文献検討、クリティーク</p> <p>地区診断・地区把握、Plan/Do/Seeの展開方法、評価の方法に関すること、質的・量的研究方法に関すること</p> <p>説明責任の知識と、文章化・資料化・プレゼンテーションの方法に関すること</p>



学習形態 (OJT/ Off-JTの 別)	教育方法・計画 (学習支援方法・計画) (講師、助言指導者、ファシリテーターが行う こと、用いる理論や手法)	望ましい 講師・助言者 (条件)	使用媒体	参考図書 参考文献
講義、実 習、グル ープ討議	先輩保健師の活動事例から学ぶ、または模 擬事例による課題を考える研修会の実施 住民や関係機関からの問い合わせ事項に ついて、文献情報や統計情報を調べ、検討 する	・調査の実務に精 通し、情報の問題 点を洞察する力が ある	医学中央雑 誌ホーム ページ	名郷直樹編集. 気 負わず毎日使える EBM超実践法. 金原出版, 2002.
講義、実 習、OJT	調査計画策定や統計分析等に関する実習 地区診断、事業評価は、継続的な研修が効 果的であるため、継続的な研修会によるリフ レクション 1年間をかけて、折々にスーパーバイザの助 言を得ながら、調査を進める	・地域保健現場等 での調査の実務経 験を持ち、現場に即 した助言を行うこと ができる	エクセル SPSS	柳川洋、他編集. 地域保健活動のた めの疫学 第2版. 日本公衆衛生協 会, 2006. 野口美和子訳. ナースのための質 的研究入門 第2 版. 医学書 院, 2006. 特集 プレゼン テーション上手に なろう. 保健師 ジャーナル 2004; 60(11).
講義、実 習、OJT	個別指導を受けながら、資料化、プレゼン テーションを行う ロールプレイやディベートによる演習 演劇など自己を表現とする演習 助言指導者は、学習者を支持し、自己効力 感を高めるように接する	・学習者の到達段 階に応じて、ある部 分には目をつむり、 学習者暖かく励ま す資質を持つ ・一定の自信を持 ち、必要に応じて、 はったりをかかすこ とができる	エクセル パワーポイ ント	

専門能力	学習目標 (期待する学習成果、 学習者の到達点)	学習内容 (学習者が学ぶこと)
5. 専門性を確立・開 発する能力	1) 専門性を定着し、 社会貢献を確実に する	保健師の歴史(時代背景、健康課題、活動 の実際) 時代の流れに応じた活動方法の変遷、更新 の必要性
	2. 専門職として活動する価値や醍醐 味を自分の言葉で語るができる	自分が継承者のひとりとして機能する方法
	3. 保健師の活動成果・社会貢献を理 解し、その、価値、使命を確認できる	自分の専門職アイデンティティ確立の程度 を振り返る方法 保健師の活動成果、社会貢献の実際
	4. 地域と住民中心の公衆衛生活動の 理念を確認できる	社会における保健師の価値、使命、求めら れる社会的位置づけに関すること 住民の健康増進、公衆衛生の視点から活動 のターゲットと優先度を決定する活動の実際 と方法
2) 自分の専門能 力を開拓・成長す る	5. 専門職に求められる傾向・特質につ いて理解できる	住民の権利擁護に関すること 地域の慣習や文化・風土の特性に応じた活 動の実際と方法 住民・関係者との協力、パートナーシップの 目的、意義 以下の重要性を確認し、学び方、習得の仕 方を学ぶ
	6. 専門能力を向上する学び方を学ぶ (learning how to learn)ことができる	包括的・鳥瞰的視野 時代を読む感性 人間的魅力、コミュニケーション・人間関係 形成能力 発展的解決(批判の受容、未来志向、チャレ ンジ精神) 体験の振り返り方法(リフレクティブ・プラク ティス実施方法)
	7. 学習課題解決に向けた行動計画立 案、実施、評価の方法を習得する	専門職としての継続的発展(Continuous Professional Development)、専門能力開発 の必要性
	8. 人に学ぶ(他から学ぶ)方法を習得	改善を要する専門能力と学習課題明確化の 方法 学習課題解決に向けた行動計画立案、実 施、評価に関すること モデルとなる人の活動の仕方・姿勢に習う方 根拠や方法、目標設定が不明瞭なときに教 育研究者や先輩に協力を求める方法 新しい知識・技術(あるいはより高めるべき専 門能力)を得る方法や機会について(雑誌・ 新聞等の日常の購読、研修・研究会等の情 報収集等)

学習形態 (OJT/ Off-JTの 別)	教育方法・計画 (学習支援方法・計画) (講師、助言指導者、ファシリテーターが行う こと、用いる理論や手法)	望ましい 講師・助言者 (条件)	使用媒体	参考図書 参考文献
講義と演習	学習内容に関する講義や媒体を聴講、視聴後、あらかじめ設定した視点に沿って演習(グループワーク、個人演習等)、参加者が自分で考え発表した後、解説・確認	(指導者=大学教員、熟練者等) ・保健師の歴史教育に詳しい指導者 ・教材を用いて指導できる者	①体験談、語り部 DVD、ドキュメントビデオ、ノンフィクション物語、事例	大国美智子、保健師の歴史、医学書院、1973
演習	テーマ、持ち時間を決め、聴衆(受講者、他の研修の機会にその参加者に、など)に語るテーマは「保健師冥利に尽きたこと」「保健師活動の醍醐味」など	・語られる内容について、ポイントを要約し皆に返せる指導者	②ワークブック、教育方法の解説書 ①②のセットワークシート	厚生省健康政策局計画課、ふみしめて五十年ー保健師活動の歴史ー、日本公衆衛生協会、1993
演習	振り返り項目を設定しペア、あるいは数名でディスカッションし、相互に確認する			
講義と演習	システムティックレビューなどの文献や事例・活動報告を学習する	・レビューや文献を読み込み解説できる指導者	システムティックレビュー事例・活動報告	各種システムティックレビュー文献
講義	それを受けてディスカッションし、学習内容について確認する EBHC、公衆衛生看護学・地域看護学の基本的な考え方、保健師の必須能力(各国基準、既存の研究成果)、権利擁護について	・学習内容に詳しい指導者	文献	鐘ヶ江葉子訳、図表でみる世界の保健医療、OECD社会政策指標2005年版
演習	振り返り項目を設定しペア、あるいは数名でディスカッションし、相互に確認する		ワークシート	
講義と演習	学習内容に関する講義や媒体を聴講、視聴後、これらの重要性を具現化する部分についてディスカッション(グループワーク、個人演習等)、参加者が自分で考え発表した後、解説・確認		①②に同じ	新潟県保健師活動研究会編、保健師が行う家庭訪問、やどかり出版、2005
講義と演習、OJT	リフレクティブ・プラクティスの学習と実践  参加型アクションリサーチの活用と実践	・メンタリング、クリニック・スーパービジョン、ファシリテーション等に長けた指導者 ・専門職教育におけるアクションリサーチに長けた指導者	ポートフォリオ、リフレクション・シート	サラ・バーンズ他編、田村由美他訳。看護における反省的実践。ゆみる出版。2005。 グレッグ美鈴、他編集。よくわかる質的研究の進め方、まとめ方。医歯薬出版、2007。
講義と演習、OJT	自分の専門能力の獲得の程度について、あらかじめ設定した指標を用いて自己評価し学習課題解決に向けた行動計画を立案し、実施、評価する	・学習内容に詳しい指導者	ワークシート	
講義	学習内容に関する講義	・学習内容に詳しい指導者	各種評価表	

※教育プログラムと教材については別途開発中。お問い合わせは岡本研究室まで。